

# 山梨の土地改良

VOL. 174 2020.1



## CONTENTS

ごあいさつ	会長・田辺 篤	1
新年にあたって	全国土地改良事業団体連合会 会長・二階俊博	2
新年の挨拶	山梨県農政部長・坂内啓二	3
新年の挨拶	山梨県農政部耕地課長・山田英樹	4
新年の挨拶	都道府県水土里ネット会長会議顧問・進藤金日子	5
新年の挨拶	都道府県水土里ネット会長会議顧問・宮崎雅夫	6
第42回全国土地改良大会	岐阜大会	7

第13回やまなし農村風景写真コンクール 季節賞(冬) 眞田幸彦 様「小正月」撮影場所：山梨市

国、自民党、公明党、県に要請活動!!	8
第4回 やまなし水土里を育む集い	9
各種研修会の報告	10
農業農村整備の集い / 令和元年度 監事会及び理事会の開催	11
「全国水土里ネット女性の会」設立総会	12
農業農村整備関係の令和元年度補正予算及び令和2年度予算の概算決定額	13
第13回やまなし農村風景写真コンクール入賞作品	14

# ごあいさつ

山梨県土地改良事業団体連合会

会長 田辺 篤



皆様方には、平素より本会の業務運営並びに本県の農業農村整備事業の推進につきまして、格別のご支援とご尽力を賜りお礼申し上げます。

本年も役員、会員の皆様はもとより、関係各位のご支援を得まして会の運営を行って参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は、9月・10月に発生した台風をはじめ全国各地で豪雨や台風災害による被害の多い年でした。本県においても、台風19号による集中豪雨で農地及び農道や水路等の農業施設の被害が、県北部を中心に240件以上発生しました。これらの豪雨により被災した地域からは、迅速な対応が求められており、被災地域の早期復旧を目指し取り組んでいるところであります。

さて、農業・農村は、安全で安心な食料を供給する場であるとともに、国土の保全、豊かな自然環境、安らぎのある農村環境の形成などの多面的機能を有しており、国民生活に大変重要な役割を果たしております。

国においては、新たな「土地改良長期計画」に基づき、農業の競争力強化や国土強靱化等の施策を推進しております。「農林水産業・地域の活力創造プラン」では、農地中間管理機構による担い手への農地集積集約化、耕作放棄地の発生防止・解消等、また更には高付加価値化・生産コスト削減に資する大区画化と国土強靱化を踏まえた水利施設の整備等が盛り込まれており「強い農林水産業」とともに「美しい活力ある農山漁村」を実現するために取り組むこととされています。

そんな中、農林水産予算の概要が昨年12月に閣議決定されております。そのうち、令和2年度農業農村整備事業関係予算概算決定額は、対前年比

100.2%、4,973億円（臨時・特別の処置540億円を含む）、令和元年度補正予算1,542億円と併せ6,515億円となり、平成21年度の5,772億円を大幅に超える水準となり改めて農業農村整備事業の重要性を感じております。

山梨県の農業は峡東地域を中心に生産量日本一のぶどう、もも、すももをはじめとする果樹、また峡北地域における米の生産と、多様な農業が展開されております。近年、新規就労者や企業の農業参入、農業生産法人数の増加など明るい兆しが見える一方で、担い手の高齢化や減少、後継者不足が深刻な問題となっております。特に中山間地域では、この傾向がより進行しており、地域コミュニティの維持すら危うい集落も見受けられます。

今後は、競争力を高めるための基盤整備とあわせ、農業や多面的機能の維持に必要な農村環境整備も強く求められているところです。

このような中、山梨県におかれましても、昨年12月に概ね20年後の目指すべき本県農業の姿を明らかにする中長期的な構想としての性格と、これに向け令和元年度から令和4年度までの4年間に実施する施策・事業の内容や工程を明らかにするアクションプランとしての性格を併せ持つ「やまなし農業基本計画」が策定されました。

本会といたしましても県が掲げる、「やまなし農業基本計画」の施策・事業実現のために県、国、市町村をはじめとする関係機関及び全国土地改良事業団体連合会との連携を図り、会員の皆様方のニーズに応えられるよう農業農村の更なる振興と発展に邁進して参りますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会

会長 二階 俊博



令和二年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年は、6月、8月の大雨、さらに台風第15号、第19号による暴風雨等により、全国各地で非常に多くの災害が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災をされた多くの皆様に、衷心よりお見舞いを申し上げます。

また、復旧・復興のために、被災地の最前線に立って日夜ご尽力頂いている多くの土地改良関係の皆さまに心から敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。

さて私は、本会の会長に就任して以来、「闘う土地改良」を掲げて参りました。そして組織一丸となって闘った結果、平成から新しい元号「令和」となる大きな節目の年に、補正予算などを含めまして、大幅削減前を大幅に上回る予算を確保することが出来ました。

令和2年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案においては、昨年度当初予算を上回る4,433億円を確保することができました。さらに、令和元年度の補正予算・臨時特別措置枠を含めると6,515億円となります。皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

また、昨年7月の参議院選挙におきましては、宮崎雅夫君が強豪ひしめく厳しい闘いの中、見事、勝利を勝ち取りました。進藤金日子参議院議員とともに、土地改良にとって実に12年ぶりの「車の両輪体制」が実現したわけです。

このように土地改良は、新しい元号「令和」の幕開けにふさわしいスタートを切ったわけであります。これも一重に「闘う土地改良」の旗印の下、組織一丸となって闘った結果であり、皆様方の御協力の御陰であります。

いま、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。特にここ数年は大規模な風水害により、農地・農業用施設でも大変大きな被害が続いており、平成30年の7月豪雨では、全国で32カ所のため池が決壊し、尊い人命も犠牲になるなど未曾有の被害が発生しました。

これらの農業農村の危機的な事態に鑑み、2年続けて土地改良法が改正されるとともに、老朽化したため池の整備について抜本的な施策を講ずるため、長年の懸案であった「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」が国会で成立、施行されました。さらにいま、政府・与党では「食料・農業・農村基本計画」の見直しも議論されているところであります。

私たち土地改良担当者としましては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にもアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げます。私の新年のご挨拶といたします。

# 新年の挨拶



山梨県農政部長

坂内 啓二

新年明けましておめでとうございます。

土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃から、県農政並びに農業農村整備事業の推進に格段の御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年は、2月に長崎幸太郎知事が就任し、農政では、農業の成長産業化を掲げ各種施策に取り組んで参りました。また、昨年12月には、生産者の更なる所得向上と農山村の活性化に向け、農政の基本理念や将来の農業の姿をはじめ、今後、本県が重点的に取り組む施策や具体的な数値目標などを明らかにする基本指針として「やまなし農業基本計画」を策定いたしました。

この基本計画では、将来にわたって、山梨の基幹産業である農業の成長産業化を図るためには、生産者が豊かさを実感できることが何よりも重要であることから、「生産者の所得の向上」を基本計画の目指すべき姿とし、これを実現するため「稼ぐ力を最大限発揮できる環境整備」と「豊かで活気ある農山村の創造」という2つの目標を掲げ、各種施策を重点的かつ着実に進めていくこととしています。

これらの施策を進める上で、農業生産には欠くことのない農地や農道、農業用水路等の農業生産基盤整備は重要な役割を担うものであり、基本計画においても農業農村整備事業を積極的に推進していくこととしております。

主な施策としては、本県農業の競争力を高めるため、農地中間管理機構と連携した中心経営体等への農地集積の推進や本県農業の基幹となる果樹産地等

における再編整備を進めるとともに、災害に強い県土づくりに向けて、ため池や農道橋等の耐震化、長寿命化対策や農村地域の防災・減災対策を進めるための農業用施設整備を推進します。

また、海外に目を向けると、農産物の流通について急速にグローバル化が拡大していることから、世界の流れに乗り遅れないよう、伝統技術など守るべきものは守りつつ、スマート農業等の新しい技術の取り組みや効率化・省力化に向けた基盤整備など、農業の競争力強化を迅速に進めなければならないと考えております。

本年7月には、東京オリンピック、同9月には、パラリンピックが56年ぶりに開催されます。本県の豊かな素晴らしい自然環境と農家の高い技術力による高品質な農産物を世界に向けて情報発信する絶好のチャンスであると捉え、本県の主要農産物でありますブドウやモモなどの果実をはじめ、海外で人気が高まっている日本ワイン、日本酒について積極的に販売促進を図って参ります。

本年も、「やまなし農業」を元気にし、農業を成長産業に導くため、農政部一丸となり、積極果敢にチャレンジして参りますので、皆様の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山梨県土地改良事業団体連合会の益々の御発展と、本年が皆様にとりまして希望に満ちた幸多い年となりますよう心より御祈念申し上げまして、年頭の挨拶といたします。

## 新年の挨拶

山梨県農政部耕地課長

山田 英樹



新年明けましておめでとうございます。

山梨県土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、常日頃より、農業農村整備事業の推進にあたりまして、多くのお力添えをいただいておりますことに心より御礼申し上げます。

昨年は、10月の台風19号により県内各地に甚大な被害が発生しました。

被災された方々には心よりお見舞い申し上げるとともに、あらためて事前防災・減災対策の必要性を感じたところであります。

耕地課では、平成25年度から取り組んでいるため池の一斉点検、耐震点検結果やハザードマップに基づき、ため池の決壊時に下流域の被害が想定される地域状況から、防災重点ため池の再選定を令和元年5月に実施しました。今後、農村地域の安全・安心を確保するため、防災重点ため池の整備を計画的かつ重点的に取り組んで参ります。

また、一昨年(2019年)の12月にTPP(環太平洋連携協定)の発行、昨年(2020年)の2月に日EU・EPA(欧州連合との連携協定)の発行、更に本年(2021年)1月1日に日米貿易協定が発行されるなど、益々国際化が進展することとなり、新たな国際環境に対応する農業の競争力強化が重要となってきております。

このほかにも、人口減少社会の到来や地域活力の低下など、農業・農村には多くの課題が山積しており、これらに対応し、農業・農村に活力を取り戻すため、本年の農業農村整備事業は次の重点項目を積極的に推進していきます。

一つ目は、昨年12月に新たに県の農業振興基本指針であります「やまなし農業基本計画」が策定され、

その中にも掲げた「地域資源を活用した農山村の活性化の推進」です。具体的には、本県特有の農村景観と生態系を保全するための自然景観に配慮した基盤整備の推進や、中山間地域において、野生鳥獣による農作物被害を軽減するための鳥獣害防止柵等の設置に取り組みます。

二つ目は、「力強い農業を支える基盤整備の推進」です。意欲ある中心経営体への農地集積・集約を農地中間管理機構等と連携し着実に進めるとともに、中山間地域において、営農の効率化・省力化や農産物の生産性・収益性の向上につながる農道や用排水路などの基盤整備に取り組むとともに、ため池や基幹水路などの農業水利施設等の土地改良施設の老朽化対策や土砂崩壊防止施設などの事前防災・減災対策に取り組みます。

これらの施策を着実に進めていくためには、農業農村整備事業の予算をしっかりと確保することが重要であります。

国の農業農村整備事業予算も、昨年末の概算決定では、令和元年度補正予算と令和2年度当初予算、さらに臨時・特別の措置を合わせると約6,515億円となり、昨年度に続き大幅削減前の平成21年度の水準を大きく上回る回復をしました。このことは、貴会役員の皆様の力強い要請活動のおかげであり、ここに厚く御礼を申し上げます。県と致しましても、しっかりと必要予算が確保できるよう取り組んで参りますので、引き続き御協力をお願いいたします。

結びに、山梨県土地改良事業団体連合会の一層の御発展と本年が皆様にとりまして幸多い年となりますよう心より御祈念申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。

## 新年の挨拶

都道府県水土里ネット会長会議顧問

参議院議員 進藤 金日子



新年明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。昨年は、「令和」の御代に移り、多くの国民が寿ぐ中で天皇陛下が御即位されました。「令和」の時代が平和で穏やかであるようにあらためてご祈念申し上げる次第です。他方、昨年も多くの自然災害が発生しました。被災された全ての方々からお見舞い申し上げます。今年こそは災害の無い年になるように祈念して止みません。

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、総務大臣政務官としての私の担務である「国勢調査」（初回開始後百周年）も行われます。多くの国家的な行事の成功に向けて、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

さて、昨年末に令和元年度補正予算と令和2年度当初予算の政府原案が閣議決定されました。土地改良予算としては、総額で6,515億円（対前年度比64億円増）を確保できました。これも偏に、農業の競争力強化と美しい農山村の形成に不可欠な土地改良の実施に向けての現場からの強い要請と関係者の皆様の熱意を政府と与党にしっかりと受け止めていただいた結果です。貴重な予算が一日も早く現場に届くよう、今次通常国会で早期成立に向けて努力してまいります。

今回の予算の特徴は、引き続き「国土強靱化」に重点が置かれたこと、水田の高度利用対策が更に重点化されたこと、農業の競争力強化に加えて中山間地域等の条件不利地域の振興対策が手厚く措置されたことだと捉えています。予算の増額措置により土地改良が更に促進されますが、貴重な予算を効率的、

効果的に執行し、土地改良に対する国民の皆様の期待に応えていくことが重要です。

昨年末、自民党農村基盤整備議員連盟総会において、ため池の整備促進を図る特別措置法を議員立法として検討することが提案・了承されました。ため池の保全管理を図る法律は、昨年制定・施行されましたが、整備促進に関する多くの課題が現場から提起されています。現場の実態に真摯に耳目を集めつつ検討を深め、与野党問わず多くの国会議員のご理解を得るべく努力してまいり所存です。

貴県におかれましては、昨年12月に概ね20年後の目指すべき本県農業の姿を明らかにする中長期的な構想としての性格と、これに向け令和元年度から令和4年度までの4年間に実施する施策・事業の内容や工程を明らかにするアクションプランとしての性格を併せ持つ、「やまなし農業基本計画」が策定されたと聞いております。施策実現のために関係者皆様の活躍を祈ります。

皆様、ご案内のとおり私の同志である宮崎雅夫さんも参議院議員として活躍しております。これも皆様方のご理解とご支援の賜物です。宮崎議員と私とが水鳥の強固な水掻きとしてフル稼働して、皆様と連携しながら「闘う土地改良」を共闘し、引き続き諸課題の解決とともに令和の新たな時代を切り拓くべく専心努力してまいり覚悟ですので、ご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。

貴会の益々のご発展と本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。



## 新年の挨拶

都道府県水土里ネットワーク会長会議顧問

参議院議員 宮崎 雅夫



新年明けましておめでとうございます。

山梨県の土地改良関係の皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私にとっての昨年は大きな前進の年でありました。一昨年の1月から、土地改良の推進、農山漁村の振興のため、地球8周分に当たる30万キロ以上を移動しながら全国各地をお伺いし、地域の状況を自分の目で見て、皆様からのご意見を自分の耳で聞き、私の考えを自分の口で話をさせていただくなどの政治活動を行ってまいりました。山梨県の皆様をはじめ全国の皆様からご支援をいただき、お陰様をもちまして昨年7月末の参議院議員通常選挙において当選の栄に浴することができました。

当選後、8月1日に召集された臨時国会で初登院し、10月4日に召集された臨時国会では、農林水産委員会、決算委員会、地方創生及び消費者問題に関する特別委員会、資源エネルギーに関する調査会に所属しております。農林水産委員会等で3度質問に立たせていただき、土地改良の推進や予算の確保などこれまでの活動中皆様から頂いたご意見を私の質問として農林水産大臣等にしっかり伝えました。党での各種部会での発言なども含め、皆様と国政を繋ぐパイプとしての役割を果たせるよう日々努力してまいります。

昨年も残念ながら山梨県においては台風19号をはじめ一連の自然災害により、7億6千万円の農林水産関係被害が生じるなど、農地や農業用施設も全国各地で大きな被害が広範囲で発生いたしました。早期の復旧はもちろんです。土地改良の農村で果たす大きな役割を踏まえ、防災・減災、国土強靱化の取り組みを強力に進めていかなければなりません。

山梨県では、ため池が124あり、現在整備改修が進められてはおりますが、ため池の耐震対策・豪雨対策などのハード面やハザードマップの整備などのソフト面の対策は待ったなしです。政府の「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」による集中的な取り組みが終了する令和2年度以降も更に取り組みが促進するよう全力で取り組んでまいります。

そして、それぞれの地域農業が発展するための基礎となる基盤整備は、着実に進めていかなければなりません。

省力化だけではなく若者の興味も高めるスマート農業は平地のみならず中山間地も推進していく必要があります。そのためには情報基盤の整備を含め基盤整備は欠かすことのできないものです。

これらの計画的な実施には、土地改良予算の安定的な確保が必要不可欠です。皆様から大変大きなご支援により、令和2年度は、当初予算4,433億円、臨時・特別の処置540億円、令和元年度補正予算1,542億円と合わせ6,515億円を確保することができました。今後ともこの流れを止めることのないよう尽力してまいります。

また、産業政策だけではなく、家族農業や中小規模の農家、兼業農家の役割を再確認しつつ、地域農業、農村集落自身を守っていくための地域政策をバランスよく実施していかなければなりません。農政の基本となる食料・農業・農村基本計画の5年に一度の見直しが進められていますが、その中にもしっかりと位置づけられる必要があります。

私は「土地改良、農山漁村は未来への礎」と訴えてまいりました。令和の新しい時代に皆様のご意見を伺いながら土地改良を推進することにより、世界に誇る我が国のすばらしい農山漁村を子供たち孫たちに引き継げるよう、先輩の進藤金日子参議院議員と力を合わせて努力をしてまいります。12年ぶりに土地改良二人体制となり、人口減少社会に突入した我が国の状況を踏まえ、土地改良も必要な見直しも大胆に進めていきたいと考えております。また、農村女性の創造力や企画力、行動力などは、これからの農村振興を加速する重要な原動力と考えています。昨年12月には「全国水土里ネットワーク女性の会」が設立されたところであり、今後の活発な活動に私もお手伝いをさせていただきたいと思っています。引き続き進藤議員と私にご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

今年は、2020東京オリンピック・パラリンピックが開催され、更に多くの外国人の方が日本に來られることが期待されています。日本の農業、農村のすばらしさを皆様どんどん発信してまいりましょう。

最後に、本年が皆様にとってよりよい一年となりますようお祈り申し上げ、年頭のあいさつといたします。本年もどうぞよろしくお願いたします。

# 清流で未来をうるおす土地改良 ～水土里の恵みを新たな世代へ～

## 第42回全国土地改良大会 岐阜大会

第42回全国土地改良大会岐阜大会が10月16日に岐阜県岐阜市の"岐阜メモリアルセンター愛ドーム"において、「清流で未来をうるおす土地改良～水土里の恵みを新たな世代へ～」を大会テーマに開催されました。大会には全国の土地改良事業関係者が一堂に会し、新たな農業・農村の展開方向に即して、農業農村整備の重要性と、それを支える水土里ネットの役割を再認識し、関係者の意識の高揚と、我が国の農業・農村の更なる発展を目的として、全国から関係者約4,000名が参集しました。本県からは田辺会長他、役員、土地改良区、県、本会から57名が参加しました。

式典では、はじめに開催県として岐阜県土地改良事業団体連合会の藤原勉会長が、日本の農業をめぐる情勢について「高齢化や人口減少等に伴う担い手不足、加えて全国各地で大規模地震や気候変動による集中豪雨が多発し、農村地域の担い手対策や防災・減災対策が喫緊の課題となっている。本大会のテーマの下、土地改良事業に携わる私たちは、希望に満ち、明るい農業・農村を実現するための総意を結集し、土地改良事業を強力に推進する決意を新たにしたい」と挨拶されました。

次に、主催者として全国土地改良事業団体連合会

の二階俊博会長が挨拶し、先の台風19号豪雨災害について「被災地の苦労の克服、一日も早く元の生活に回復していくことが私たちの最大の務めであり、現地の皆様のご要望に応え、出来ることは全て行っていく決意をお約束申し上げる」と述べ、最後に「私たちは“闘う土地改良”の旗印の下に、組織一丸となってこれからも頑張る必要がある。皆様のお力をいただきながら、皆で土地改良の重要性を認識しながらいるいるな事業に取り組んでいきたい」と述べられました。

続いて、岐阜県古田肇知事、岐阜市柴橋正直市長による歓迎の挨拶、伊藤良孝農林水産副大臣、野田聖子衆議院議員、岐阜県議会小川恒雄議長、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問進藤金日子参議院議員、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問宮崎雅夫参議院議員から祝辞が述べられました。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰41名が表彰されました。本県からは、土地改良事業に対する長年の功績が認められ、農村振興局長表彰を明野茅ヶ岳土地改良区理事長清水岩男様、全国土地改良事業団体連合会長表彰に榎山土地改良区前理事長浅川豊和様が受賞の荣誉に浴されました。

その後、農林水産省農村振興局の奥田透次長より「未来を潤す土地改良」と題し基調講演を行い、続いて優良地区事例紹介が行われた。

最後に、「未来の懸け橋である土地改良を、豊かな水土里を、新たな世代へ引き継いでいくことを、ここ“清流の国ぎふ”から高らかに宣言します」と大会宣言を行い、次回開催の群馬県へ大会旗が引き継がれました。次期大会は2020年10月14日（水）群馬県高崎市「Gメッセ群馬」で開催されます。



二階俊博 全土連会長 主催者挨拶



山梨県参加者 正面玄関にて



左 農村振興局長表彰 明野茅ヶ岳土地改良区 清水岩男 理事長  
右 全国土地改良事業団体連合会長表彰 榎山土地改良区 浅川豊和 前理事長



# 国、自民党、公明党、県に要請活動！！

山梨県土地改良事業団体連合会 会長 田辺 篤（甲州市長）は、10月25日（金）に長崎幸太郎山梨県知事、坂内啓二農政部長をはじめとする農政部幹部職員、また山梨県農業農村整備推進協議会（会長 田辺 篤）は、10月29日（火）に、自民党二階俊博幹事長・岸田文雄政務調査会長・鈴木俊一総務会長、公明党、藤川政人財務副大臣、藤木眞也農林水産大臣政務官及び県選出国會議員に対して要請活動を行いました。要請内容は、農業農村整備事業が計画的に進められるよう、令和元年度補正予算、令和2年度当初予算の必要額の確保、また近年全国で地震や集中豪雨による被害が発生しており、本県でも台風19号により甚大な被害が発生しており、今後も大きな規模の災害が発生することが懸念されることから、農村地域の防災・減災対策や農業水利施設等の長寿化対策に対して予算の確保を要望しました。



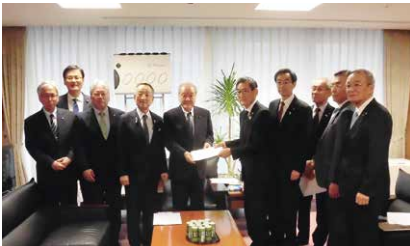
長崎幸太郎 山梨県知事



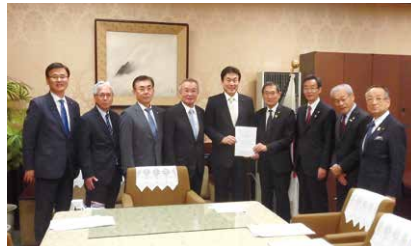
二階俊博 自民党幹事長



岸田文雄 自民党政務調査会長



鈴木俊一 自民党総務会長



藤川政人 財務副大臣



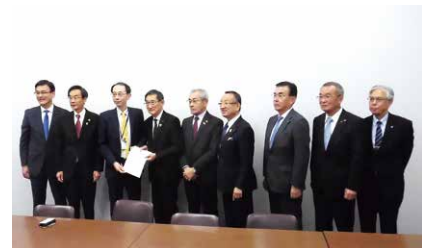
藤木眞也 農林水産大臣政務官



進藤金日子 参議院議員



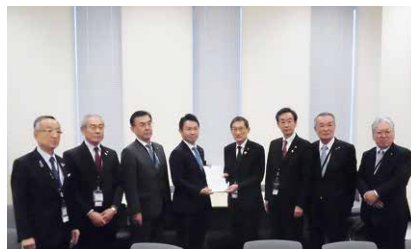
牧元幸司 農林水産省農村振興局長



中澤正彦 財務省主計官



赤池誠章 参議院議員



中谷眞一 衆議院議員



堀内詔子 衆議院議員

# 第4回 やまなし水土里を育む集い

(多面的活動組織の表彰と活動報告)

山梨県多面的機能推進協議会は11月29日、山梨県知事長崎幸太郎様を来賓に迎え第4回やまなし水土里を育む集いを開催しました。この集いは、多面的機能支払交付金事業に取り組む活動組織が、意欲的且つ円滑に活動を実施する為のきっかけづくりを趣旨としています。表彰は、地域住民と連携し農村環境保全などの多面的機能増進活動を通じて農村振興に特に功労のあった、3組織が知事賞等を受賞されました。



長崎幸太郎 山梨県知事 来賓挨拶

## 表彰団体

### ◇山梨県知事賞

#### 飯野新田保全委員会

南アルプス市  
代表者：飯塚 龍巳 様  
田30.2ha、畑14.4ha

#### 主な活動

- ふれあい農園の挑戦…遊休農地2カ所を共同で管理し景観形成の実施
- 遊休農地対策として組織で管理するふれあい農園に、荒れ地に強く、畑地の雑草抑制に効果がある、秋蕎麦を栽培し収穫物を利用した地域交流
- 近隣保育所の児童と共にさつま芋の苗の植え付けや収穫体験

### ◇山梨県農政部長賞

#### 中牧地域環境保全活動委員会

山梨市  
代表者：佐藤 進 様  
畑75.7ha

#### 主な活動

- 簡易な補修工事は基本組織が直営施工。土木技術の伝承。
- 非農業者との協力による、地域全体としての農道・水路・鳥獣害防止柵の定期的な管理。

### ◇山梨県多面的機能推進協議会会長賞

#### 開田地区環境保全会

市川三郷町  
代表者：平岡 正文 様  
田300.0ha、畑200.0ha

#### 主な活動

- 地元保育所との花の種まき等の景観形成活動
- 田んぼの生き物調査、サツマ芋の苗植え～収穫体験等、学校教育と連帯した地域間交流



基調講演

基調講演では、農林水産省 関東農政局農村振興部 農地整備課多面的機能支払推進室 奥間靖四様より、『多面的機能支払の現状と今後の展開方向』と題して講演されました。その後、表彰団体を代表して3組織の方々が活動報告を行いました。県内各地より総勢約250名の参加をいただき、集いは成功裡に終了することができました。



# 令和元年度 山梨県土地改良区複式簿記導入促進特別研修会

10月3日山梨県自治会館講堂において、本会主催の令和元年度 山梨県土地改良区複式簿記導入促進特別員研修会を開催しました。

土地改良法の改正にともない令和4年度から土地改良区の貸借対照表の作成が義務化されました。この研修会は、複式簿記への円滑な移行を実現することを目的に「土地改良区強化事業実施要綱」により、全国各県で開催されています。

研修会には、土地改良区役職員、県担当職員、市町村担当者60名の参加がありました。

研修科目、講師は以下のとおりです。



複式簿記導入促進特別研修

研修科目	講師
1. 土地改良複式簿記の基礎知識	全国土地改良事業団体連合会 支援部 宮本 修
2. 新たな土地改良区会計基準について	農林水産省 関東農政局 土地改良管理課 専門官 畠山 正弘
3. 土地改良施設の資産評価マニュアルの紹介と減価償却の実務	農林水産省 関東農政局 土地改良管理課 専門官 畠山 正弘
4. 開始貸借対照表の作成方法について	全国土地改良事業団体連合会 支援部 宮本 修
5. 土地改良区会計基準に基づく会計記帳実務Ⅰ、Ⅱ	全国土地改良事業団体連合会 支援部 主幹 田中 克哉

# 令和元年度 第2回土地改良区等役職員研修会

12月4日山梨県自治会館講堂において、令和元年度第2回土地改良区等役職員研修会を、土地改良区等の役職員など総勢60名の参加の中開催しました。

主催者挨拶として、当会渡邊祥司専務理事が日頃よりのご支援と研修会参加への御礼を述べ、続いて、山梨県農政部耕地課課長山田英樹様より来賓の挨拶をいただきました。この研修会は、土地改良区の健全な組織運営等を目的に年2回開催しています。今回は、山梨県内における検査の指摘事項、土地改良区との連携に係る協力について、一部土地改良改正に伴い、土地改良区の在り方と現状について詳細な説明が行われました。



土地改良区役職員研修

研修科目	講師
1. 山梨県内における検査指摘事項等について	山梨県農政部耕地課 指導管理担当 副主査 望月 亮
2. 土地改良区と活動組織との連携に係る協力について	農林水産省 農村振興局整備部 農地資源課 多面的機能支払推進室 企画係 田中 聡至
3. 土地改良区の在り方と現状について	農林水産省 関東農政局 農村振興部 土地改良管理課 課長補佐 佐藤 大治郎

# 令和元年度 第2回農業農村整備技術研修会

12月2日山梨県自治会館講堂において、令和元年度第2回農業農村整備技術研修会を開催しました。この研修会は（一社）山梨県建設業協会、山梨県土地改良技術協議会、山梨県土地改良事業団体連合会の三団体協賛で開催され農業農村整備事業に携わる関係者が技術力向上等を目的に開催され、今回の研修には県、市町村、土地改良区、建設業協会、土地改良技術協会、土地連職員等約220名が参加しました。協賛3団体の会長挨拶の後、来賓として山梨県農政部技監清水一也様の挨拶をいただきました。講演では、山梨県農政部耕地課技術指導監浅川一輝様から「土地改良施設の長寿命化・防災減災への取り組みについて」と題し、土地改良施設の現状と課題、ため池災害に対する防災・減災等について、続いて農林水産省関東農政局農村振興部用地課課長井出定男様から「工事施工に用地補償業務の関わり方」と題し、自身の実体験を交え工事施

工に関するトラブルの実例を、最後に（一財）日本水士総合研究所 性能設計技術グループ主任研究員小倉健一郎様より「近年の降雨形態の変化及びため池決壊の要因分析について」と題し、近年全国で相次いでいる豪雨によるため池決壊のメカニズム・要因について講演が行われました。



農業農村整備研修



# 農業農村整備の集い

11月11日、砂防会館別館シエーンパッサ・サポーにおいて、全国土地改良事業団体連合会及び都道府県土地改良事業団体連合会の主催で、「農業農村の集い～農を守り、地方を創る予算の確保にむけて～」が開催されました。この集いは、農業農村整備に携わる全国の関係者が一堂に会し、それぞれの現場で直面している喫緊の課題を再確認し、これらの諸課題に緊急に対応するべく、農業農村整備事業の予算確保となお一層の充実と推進を期するものであり、山梨からは土地改良区理事長等15名が、臨時国会の中駆けつけた与野党を含む多数の国会議員党含め、全国から1,300名を超える関係者が参集しました。二階俊博全土連会長は、主催者の挨拶の中で、「台風等の災害で亡くなられた方々のご冥福を祈り一日も早い復旧に対応していきたい。先の参議院選挙では宮崎議員が誕生し車の両輪体制が実現し感謝申し上げる。そんな中土地改良予算の確保に向け、「闘う土地改良」の旗の下、関係者ご協力・ご支援を期待したい。」と述べました。続いて、江藤拓農林水産大臣は、「台風の被災地域をまわり自然災害の強い農業の農村の基盤整備が必要と感じた。農林水産省としても全力で取り組む。」との決意を述べられました。自民党の森山祐国会対策委員長、塩屋立農林・食料戦略調査会長、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問進藤金日子参議院議員、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問宮崎雅夫参議

院議員がそれぞれの立場で祝辞を述べました。また加藤寛治農林水産副大臣、藤木眞也農林水産大臣政務官、牧元幸司農村振興局長も駆けつけてくれました。閉会后、要請実現に向け、各都道府県やブロックの代表者が政府、国会議員へ強力な要請活動を行いました。



二階俊博 全土連会長



江藤拓 農林水産大臣



進藤金日子 都道府県土地改良連合会会長会議顧問



宮崎雅夫 都道府県土地改良連合会会長会議顧問

## 令和元年度 山梨県土地改良事業団体連合会 監事会及び理事会の開催

監事会・監査会は10月21日（月）土地連役員室で、理事会は10月25日（金）「ホテル談露館」で開催されました。監事会では、1.令和元年度監事会及び監査計画について、2.令和元年度補正予算について、3.理事間の契約について（利益相反）、以上の3議案が承認されました。監査会では、1.平成30年度事業報告・収入支出決算について、2.令和元年度事業中間の執行状況並びに会計経理の状況について説明し証憑書類等で

監査を実施した結果、いずれも承認されました。

理事会では田辺篤会長を議長に、議事を進行。1.平成30年度事業報告・収入支出決算並びに財産目録について、2.令和元年度補正予算（案）について、3.令和元年度事業並びに収入支出中間報告についての3議案が監査報告の後満場一致で承認されました。

理事会開催前に長崎幸太郎知事他、県幹部に対して要請活動を行いました。



監事会・監査会



理事会

# 「全国水土里ネット女性の会」設立総会

12月10日、砂防会館別館 木曽において、「全国水土里ネット女性の会」第1回総会が80名の参加の下開催されました。総会に先立ち、全国水土里ネット小林祐一専務理事の主催者挨拶の後、都道府県水土里ネット会長会議顧問参議院議員進藤金日子様、同宮崎雅夫様、農林水産省農村振興局整備部水資源課課長柵木環様より祝辞をいただきました。

これまで全国水土里ネットでは「全国水土里ネット女性の会の設立」に先立ち、女性が土地改良事業推進の中核を担える環境を作り進めることを目的に、都道府県水土里ネットに在籍する女性職員を構成員とする「水土里ネット広報女性部会」を平成29年度に設立し、これを中心として新・田舎人や全国水土里情報等の情報誌に女性の活躍事例を紹介するとともに、毎年度研修会を開催し女性のスキル向上やネットワーク作り等に貢献してきました。

また、都道府県では、水土里ネット女性職員を会員とする女性の会の設立が相次いでおり、現在全国各県で14団体が設立され、今後も設立数が増加していくものと見込まれます。

一方、政府ではこの5月に内閣府が所掌する「女性活躍推進法」が成立する等、女性はその個性と能力を発揮できる社会づくりが官民一体で進められています。農村部においても、高齢化や少子化の現状を踏まえれば、より一層の女性の活躍が必要となっているところです。

このような情勢の変化及び会員の声に適切に対応するため「水土里ネット広報女性部会」を発展的に解消し、全国水土里ネット女性職員、また新たに、各地域における水土里ネットに在席する女性職員及び女性の会の会員を会員とし、水土里ネット女性職員のネットワークを広げ、情報共有化や連携の強化を図るとともに、研修会等への参加による自己研鑽により知識やスキルの向上に努めることで、女性が土地改良事業の中核を担える環境作りを目的に「全国水土里ネット女性の会」を設立するものです。

総会では、第1号議案 会則案制定が承認された後、第2号議案では役員選出が審議され、会長に水土里ネットやまなし総務課長 萩原文巳様 副会長に水土里ネット岡山総務部長 荒木美子様 水土里ネットみやぎ総務部次長 戸松若菜様が選任されました。新役員において第3号議案 活動報告、第4号議案 活動計画案が審議され全会一致で承認されました。

また「全国水土里ネット女性の会」では顧問に、進藤優貴子様（進藤金日子参議院議員夫人）、宮崎匡代様（宮崎雅夫参議院議員夫人）を迎えました。

総会終了後「第二部」パネルディスカッションとして、テーマを「今後の、農業・農村における女性の活躍に期待すること」と題し4人のパネリストで行われました。



萩原文巳会長 挨拶

# 農業農村整備関係の 令和元年度補正予算及び 令和2年度予算の概算決定額

昨年末の閣議において、農業の競争力強化に向けた経済対策の実行に向け、令和2年度予算が概算決定され、農林水産省の予算総額は対前年比100.0%、23,109億円で、このうち農業農村関係予算は4,973億円となりました。

令和2年度農業農村整備事業予算概算額は、令和元年度補正予算及び臨時・特別措置と併せ6,515億円と大幅に削減された以前の5,772億円を大幅に超える水準となりました。

国の農業農村整備事業に係る団体、関係者が財務省、農林水産省、政府与党、国会議員に山梨をはじめ、全国より要請活動を行った成果と思います。

## 令和2年度 農村振興局関係予算 概算決定の概要

(単位：億円)

事 項	令和元年度 当初予算額			令和元年度 補正予算額	令和2年度 概算決定額			
	「臨時・特別の 措置」を除く	「臨時・特別の 措置」	当初予算額		「臨時・特別の 措置」を除く	「臨時・特別の 措置」	概算決定額	
	A	B	C=A+B		D	E	C=A+B	対前年度比 F/C (%)
公共事業	4,306	566	4,872	2,141	4,326	557	4,883	100.2%
農業農村整備事業	3,260	511	3,771	1,466	3,264	511	3,775	100.1%
農山漁村地域整備交付金	927	50	977	72	943	42	985	100.8%
海岸事業	36	5	41	3	36	4	40	97.6%
災害復旧事業	83	—	83	600	83	—	83	100.1%
非公共事業	1,569	—	1,569	45	1,533	—	1,553	99.0%
予算総額	5,875	566	6,441	2,187	5,879	557	6,435	99.9%

- (注) 1 計数整理の結果、異動を生じることがある。  
2 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しない場合がある。  
3 農山漁村地域整備交付金は、林野庁及び水産庁分を含む農林水産省全体の額である。

## 農業農村整備事業関係予算決定の概要

(単位：億円)

	令和元年度 当初予算額	令和2年度 概算決定額			令和元年度 補正追加額	合計
		「臨時・特別の 措置」を除く A	臨時・特別の 措置」 B	概算決定額 C=A+B		
農業農村整備事業（公共）	3,260	3,264 (100.1%)	511	3,775 (115.8%)	1,466	5,241 (160.8%)
農業農村整備関連事業（非公共）	508	508 (100.1%)	—	508 (100.1%)	14	522 (102.8%)
〔農地耕作条件改善事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業〕						
農山漁村地域整備交付金（公共） （農業農村整備分）	650	661 (101.7%)	29	690 (106.2%)	62	752 (115.7%)
計	4,418	4,433 (100.3%)	540	4,973 (112.6%)	1,542	6,515 (147.5%)
				「臨時・特別の措置」を除く		5,975 (135.3%)

- (注) 1 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しない場合がある。  
2 下段（ ）書きは令和元年度予算額（「臨時・特別の措置」を除く）との比率である。  
3 令和元年度補正額はTPP関連対策及び防災・減災、国土強靱化の更なる推進のための対策が対象。  
4 農業農村整備関連事業（非公共）における令和元年度補正額は、中山間地域所得向上支援事業の基盤整備分である。



# 第13回

## やまなし農村風景

### 写真コンクール入賞作品

「未来に繋ぐやまなしの農村風景」をテーマに、やまなし農村風景写真を募集したところ、風情ある農村の四季の他、賑やかで活気のある農村の暮らしや伝統の祭り、歓喜あふれる収穫の表情や農作業中の微笑ましい情景などの作品、総計613点の応募があり厳正な審査の結果知事賞をはじめ入選作21点が決定しました。入賞作品は、山梨県農政部耕地課のHPに掲載しています。



■山梨県知事賞 「おいちい!!」  
木村 雅美様（甲斐市）／撮影場所：甲府市



■審査委員長賞 「みさかの春」  
山中 一彦様（甲斐市）／撮影場所：笛吹市



■農政部長賞 「田ならし」  
星野 郁男様（上野原市）／撮影場所：西桂町

### 第13回やまなし農村風景写真コンクール 受賞者

賞	受賞者	住所	作品名
季節賞（春）	野中 光征	南アルプス市	春爛漫
季節賞（夏）	山内 陽子	甲斐市	もう一個とる！
季節賞（秋）	外川 ゆかり	中央市	きらめく実り
季節賞（冬）	真田 幸彦	甲府市	小正月
入選	雨宮 ますみ	甲州市	ぶどう棚と桜
入選	岩澤 文男	甲府市	新府の春
入選	大柴 力	韮崎市	田植前
入選	河西 茂彦	南アルプス市	摘花に豊作を案ずる
入選	小林 弘美	南アルプス市	ひと休み

賞	受賞者	住所	作品名
入選	坂本 智子	甲府市	お散歩の途中で
入選	清水 弘海	甲府市	豊作を祈って
入選	志村 孝	南アルプス市	害虫駆除
入選	内藤 均	南アルプス市	花冷えの朝
入選	根本 ちえ子	都留市	未来を継ぐ 子供達
入選	初海 裕子	笛吹市	桃の花
入選	原田 敏子	笛吹市	菜の花畑でかくれんぼ
入選	藤巻 正英	南アルプス市	早く！ 早く！
入選	丸山 茂秋	富士川町	春なのに

※敬称は略させていただきます。  
※入選は、あいうえお順。

新年の御挨拶

謹んで新年のご祝詞を申し上げます  
本年もよろしくお願ひ申し上げます

令和2年1月

山梨県土地改良事業団体連合会  
(水土里ネットやまなし)

会 長	甲州市長	田辺 篤			
副 会 長	韮崎市長	内藤 久夫			
副 会 長	笛吹市長	山下 政樹			
専務理事	学識経験者	渡邊 祥司			
理 事	甲斐市長	保坂 武	理 事	中央市長	田中 久雄
理 事	都留市長	堀内 富久	理 事	北杜市長	渡辺 英子
理 事	笛吹川沿岸土地改良区理事長 (山梨市長)	高木 晴雄	理 事	南部町長	佐野 和広
理 事	富士川町長	志村 学	理 事	小菅村長	船木 直美
総括監事	上野原土地改良区理事長	奈良 明彦			
監 事	楯無堰土地改良区理事長	今村 正城			
	徳島堰土地改良区理事長	藤原 芳洋			
	他職員一同				

技術力向上及び資格取得への取り組み

本会では、技術研修会への参加、職場内での勉強会をとおして、職員の技術力向上及び資格取得に努めております。今年度は、農業土木技術管理士に2名、測量士補に1名が合格、また会計指導員に3名が認定されました。今後も成果品の品質確保を図り、会員の皆様の信頼を得られるよう技術力向上、各種資格取得に努めて参ります。

農業土木技術管理士	事業課副主査	熊王 広幸
	事業課主任	秋山 真吾
測量士補	事業課技師	竹田 圭佑

会計指導員

総務部課長 萩原 丈巳  
事業部主事 大柴英理香  
総務部専門員 保坂 衛

行事予定表

2/17	土地連 監事会・監査会	土地連役員室
2/21	土地連 理事会	セレス甲府
3/25	山梨県土地改良事業団体連合会第61回総会	自治会館講堂
3/26	全国土地改良事業団体連合会第61回総会	都市センターホテル

農業農村  
整備事業は

- 調査設計・測量
- 換地確定測量
- 農業集落排水事業  
(ストックマネジメント)
- 水土里情報システム

山梨県土地改良事業団体連合会へ

建設コンサル登録：農業土木部門



山梨の土地改良 VOL.174

発行：令和2年1月

発行者：山梨県土地改良事業団体連合会  
〒400-8587 山梨県甲府市蓬沢1丁目15番35号 自治会館5階  
TEL 055-235-3653 FAX 055-228-8174  
URL：http://www.yamanashi-doren.or.jp  
E-mail：syomu@yamanashi-doren.or.jp

